

## 令和5年度第1回四万十町総合振興計画審議会 会議録

開催日時：令和5年6月27日（火）10：00～12：00  
場所：本庁東庁舎 1階 大ホール  
出席者：横山 順一、田中 勇一、竹吉 功、黒岩 範久、船村 覺、  
島岡 華奈子、岡村 健志、野村 宏、山本 由美  
欠席者：掛水 誠幸、百田 幸生、神田 修、佐々木 将司、田邊 誠進、  
三浦 ひろみ、浅野 尊子

### ■会議次第

1. 開会
2. 会長挨拶
3. 地方創生推進交付金、地方創生拠点整備交付金の効果検証について
4. その他
5. 閉会

### ■会議資料

1. 会議次第
2. 委員名簿
3. 令和4年度地方創生推進交付金事業評価資料
4. 令和4年度地方創生拠点整備交付金事業評価資料
5. 委員評価シート

（事務局）

ただ今より、総合振興計画審議会を始めさせていただきます。よろしくお願いいたします。会議の前に、新年度になった関係で交代された委員さんがおられますのでご紹介させていただきます。小中学校校長会よりご出席いただいております、川添委員さんが今回窪川中学校長の黒岩委員さんに交代となりましたので、よろしくお願いいたします。それでは早速ですが、会長よりご挨拶をいただきたいと思います。

（岡村会長）

皆さんこんにちは。本日は主に地方創生交付金の関係の評価がテーマということで、ぜひ皆様のお知恵をおかしていただけだと思います。実際、地方創生もだいぶ局面が変わってきましたけれども、まだこれからもDXとかデジタルっていうキーワードを今年度以降は盛り込みながら進んでいくものだと思います。地域にとってはそういった新しい風も必要ですが、我々がやっていることは基本同じですので、皆様そういった面ではこれまでと変わりなくアドバイスいただければと思いますし、最新のキーワードが出てきた時にわかりづらいような表現がありましたら、今日の説明会の中でも積極的にご質問頂ければと思います。ジャンルも多岐にわたっておりますので頭の切り替えも必要などところもあると思いますが、どうかその点はご了承いただければと思います。時間ですけれど、約2時間ございますが、残りの30分は評価の記載の時間に充てていただければと思います。それでは、早速始めたいと思います。よろし

くお願いいたします。

(事務局)

本日は、国から交付金をいただいて実施しております、地方創生推進交付金事業と地方創生拠点整備交付金事業の2つの事業について、効果検証をお願いしたいということで、ご案内をさせていただいております。担当課の説明の前に本日の会の流れについてご説明させていただきます。〈説明省略〉

(岡村会長)

評価点のところですけど、1～5点の評価点を採点することになっていまして、5点を見ていただくと、実施の内容や対象者が適切であり、十分な効果が認められるということですが、例えば1点を見ていただくと、実施の内容や方法に不備があり、効果が認められないというふうに書かれていますけれども、2つのテキストの文脈で書かれています。例えば実施の内容に不備があっても効果が出ているみたいなケースもあるかもしれませんし、実施の内容が適切であっても効果が出ていないこともあるかもしれません。そういった場合は、1～5の選択肢に該当しないのですが、総合的に勘案をいただいて、1～5で点数付けをしていただきたいということですのでよろしいですね。それでは、評価の仕方についてはそうした形をお願いできればと思います。

(事務局)

それでは、地方創生推進交付金事業の評価資料に基づいてご説明をお願いします。また、説明される事業の中でKPIに関連するところを実施している事業の担当課の方は、その事業の説明の中でKPIについても触れていただきたいと思いますのでよろしくをお願いします。

それでは2ページの4番の令和4年度の具体的な取組内容及び評価というところを順にご説明の方をお願いします。

(企画課：津野四万十川振興室長)

2ページ【1四万十川の資源を生かす取り組み】(1)流域資源の利活用について、①四万十産アユ活用事業について説明〈省略〉

(岡村会長)

ありがとうございます。続いて②地産地消外商推進事業につきましてご説明をお願いします。

(にぎわい創出課：津野副課長)

3ページ②地産地消外商推進事業について説明〈省略〉

(岡村会長)

ありがとうございます。ここまでで一旦区切らせていただきたいと思います。ご質問とかありましたらお願いします。

(竹吉委員)

全体的な評価につながるのですが、コロナ禍にあって非常にそういった意味での評価が難しい部分が今回かなというのを感じているところでございます。

1つ目のこの(1)流域資源の利活用というお題のところにつきましては、人流が

あって成果が生み出せるものと、例えばネット販売等でしたらコロナ禍の中で行動制限となる中で逆に伸びたということはよく聞く話でもあります。そういった意味ではこの項目についても、全体的な総合の評価が難しい部分があるかなと感じたところでございます。

1点質問としては、1つ目の四万十川の資源を生かす取り組みの中の①四万十産アユ活用事業ですけれども、この天然アユという言葉のその定義は自然（天然）遡上のものか、それとも放流しているものも含めた天然アユという認識でよろしいでしょうか。

（企画課：津野四万十川振興室長）

天然アユの定義ですが、消費する時に放流したのかどうかの判断ができませんので、天然遡上したアユも放流したアユも含めて天然アユということになります。

（岡村会長）

先程のコロナ禍での業績評価がなかなか難しいというご意見がありましたけれど、どうでしょうか今ご説明いただいたお2人の中で、コロナ禍なのにこうだったぞというアピールですとかありましたら少しお願いできればと思います。

（企画課：津野四万十川振興室長）

すいません、最初の説明の時に、KPIについてのご説明が抜かっておりましたが、令和3年度、令和4年度とコロナ禍ではありましたが、令和4年度のKPIの目標を見ていただきたきますとアユの漁獲量というところで、目標が令和4年度は1400kgに対して、上流淡水漁協が取り扱っている分ではありますが、1799kgということですので。これは皆さんもご存知かと思いますが、昨年は四万十川のアユがとても豊漁だったということで、取れた量が確かに圧倒的に多かったということもありますし、それに加えてこのような消費を促すようなイベントも実施することによって、取り扱った漁協がどんどんアユを仕入れることができたということが、一つ成果ということで付け加えさせていただきます。

（にぎわい創出課：津野副課長）

先程委員さんが言われましたとおり、ネットの販売については、巣籠もり需要といったところで、実はネットの世界では、特に食品の部分、日用品の部分といったところは非常に大きく伸びた時期でもありました。この事業については、令和3年4月に販売を開始いたしまして、9月に休止といった形になったのですが、正直その時に販売が継続できておれば、一定販売額が伸びたということになったかもしれないという思いはあります。ただ、販売自体が難しいという体制になってしまったので、そこは結果論だけになってしまうのですが、ただ、そのコロナの影響も緩和されてきて、巣籠もりは溶けてきている訳でして、ただネットでの購買というのはすごく便利なものでございまして、消費者も一定そういう機会が増えていくと、ネット販売の需要が100%コロナ前に戻るということはないと思いますので、ネット販売の世界はまだまだ伸びていく分野だとは思っています。そちらの方はこの7月の販売開始後にまた更に伸ばしていけたらと思っております。それで、併せて外商の他の部分に関しては、町内の事業者さんだけではなくて、日本全国の事業者さんもそうなのですが、リアルの展示会というのが令和3年ぐらいまでなかなか開催ができなかったというのが現状です。ただ、昨年度に関しては少しずつコロナが明けてきたというか、コロナの感染対策を万全にしたうえで、実際にリアルの展示会に出店ができつつあるというところ

もありますので、そういうところで日本全国の食品分野というか、そういったところがまた活気づいてきておりますので、今年度に向けて力を入れて頑張っていきたいと思えます。

(横山委員)

ネット販売については、具体的な目途がたったということで、すごく良かったなと思っています。具体的に、再開の日が7月3日という期日も出ましたので。それで、他にも希望している事業者への声掛けの方を再度よろしくお願ひしたいと思えます。それと確認ですが、2ページ目のところの今後の課題及び対策というのは、昨年3年度についての確認ですけれど、釣りのイベントの実施について課題があるということが書かれていたのですが、4年度は見送ったのか、実施したのかということを確認でお願ひしたいと思えます。

(企画課：津野四万十川振興室長)

釣りのイベントについてですけれども、令和3年度から課題があったということで、令和4年度も実施を計画しておりましたが、それこそ先ほどの話にもありましたが、コロナ禍の影響であったり、台風の影響であったりして、やむを得ず中止にさせてもらったイベントがほとんどという結果になってしまいました。そこでですね、体験イベントの参加者数というの、KPIの実績値のとおり、150名の目標であったにもかかわらず、105名の実績であったということで少なくなってしまったというのは確かにあります。

(岡村会長)

よろしいでしょうか。時間の都合もございますので、次に進めたいと思えます。まだ質問が足りないという方は、最後の30分で少しご質問を受け付けたいと思えますのでお許しください。では、続きまして、(2)観光資源の活用及び商店街との連携の方に移りたいと思えます。

(企画課：津野四万十川振興室長)

この事業については2つの係が担当していますので、私が前半の方を話しまして、後半の方はまた別の担当の方からご説明させていただきます。

4ページ(2)観光資源の活用及び商店街との連携①四万十川PRツール作成・利用事業について説明 <省略>

(企画課：坂本情報対策監)

四万十町の情報発信について説明 <省略>

(にぎわい創出課：笹岡係長)

②受入体制整備事業について説明 <省略>

別資料：拠点整備交付金評価資料について説明 <省略>

(岡村会長)

ありがとうございます。以上ご説明いただきましたのが、(2)観光資源の活用および商店街との連携でございます。そして先ほど拠点整備交付金事業についてもご説明いただきましたが、これは複雑でございますけど、今ご記入いただくようとする評価シートとはまた別のものがございますので、ご注意いただければと思えます。ご説明

いただきました点につきまして、ご質問ありましたらお願いしたいと思います。

(岡村会長)

私の方から1点よろしいでしょうか。海洋堂ホビー館のリニューアル事業のことで、どうしてリニューアルされたのでしょうか。

(にぎわい創出課：笹岡係長)

海洋堂ホビー館の方は、もともと展示室と入場するところが、一体となっております。また展示室以外の物販スペースと休憩所がなかったことによりまして、例えばお父さんやお母さんが展示を見終えているけど、子供がまだ展示を見ている場合など、駐車場ですっと待機してもらうような形になっておりました。そこで、休憩室や物販スペースを設けることによって、ゆっくり休憩もしていただきながら、消費にもつなげていきたいという狙いもあり、この度の改修に至ったところです。

(岡村会長)

ありがとうございます。客単価を上げようということですね。その他にご質問いかがでしょうか。

(横山委員)

確認ですが、今ホビー館の説明を最後にいただきまして、昨年の令和3年度の課題への対策の件ですが、昨年度に4名の生産者から出品の意向があつて、色々手数料のことなどを協議しているという説明をいただいたんですがその結果とかその状況が書かれていないので教えてほしいということと、公衆無線LANの設置が令和4年度の8月にできるというような話もありましたが、それについて現状はどうかということをお教えいただければと思います。

(にぎわい創出課：笹岡係長)

生産者の方と調整するということがあったのですが、海洋堂ホビー館の方が飲食するものを販売しておりませんので、そこで飲食できるお弁当であるとか、おにぎりであるとか、そういったものを出品していただきたいという狙いもありましたが、まだ調整が付いておりませんので開始しておりません。それから公衆無線LANにつきましては少し遅くなったのですが、2月に整備を終わらしまして、全館Wi-fiが対応となっております。

(野村委員)

四万十川PRツール作成のところ、4ページのどこなんですけど、you tube等の反響があつて実際SNSを見て関心を持って実際に訪れましたって人もおられるということですが、やはりSNSを見て来られる方は若い人が多いのでしょうか。

(企画課：津野四万十川振興室長)

確かに見られている方は若い方が多いと思いますので、来られている方も若い方が多かったように思われます。

(岡村会長)

ありがとうございました。時間がおしてきましたので、次に進めたいと思います。続きまして、「四万十川流域の豊かな暮らしを育む取り組み」というところに移りた

と思います。資料の方はですね、また戻りまして地方創生推進交付金事業になります。6ページの(1)資源回復のための取り組みからお願いしたいと思います。

(企画課：津野四万十川振興室長)

(1)資源回復のための取り組み①水産資源回復事業について説明〈省略〉

(岡村会長)

ここでいったん区切って、ご質問を受け付けたいと思いますがいかがでしょうか。

(山本委員)

カワウの現在の分布状況について分かっていたら教えてください。

(企画課：津野四万十川振興室長)

四万十町全体として、特に本流筋が多いのですが、本流筋では幅広く目撃情報があるため、一部の地域に限定されているということはありません。ただ、その中でも一番多く飛来が目撃されているのは、栲原川沿いの津賀ダムの上あたりにカワウの巣またはコロニーがあるということが確認されております。それで、現在その状況に合わせて、今年度の事業になりますが、ドローン等で実際にどれくらい生息しているのかなどをさらに深く調査していこうとしているところです。

(岡村会長)

ありがとうございます。その他いかがでしょうか。では、私の方から1つ教えてください。基礎調査とカワウ対策がありますけど、カワウ対策のためだけに基礎調査をやられた訳ではないですよね。非常に貴重なデータが得られていると思うのですが、それを今後どういうふうに具体的に活かそうかですか、そういったところで、この調査の意義みたいなところを少しご紹介いただければと思います。

(企画課：津野四万十川振興室長)

調査の意義についてですが、最初のアユの基礎調査についてはもちろんアユの天然資源を増やしたいというのが第1の目的です。そのためには、もちろん毎年放流もやっておりますが、天然アユないし放流も毎年変動がありますが、そこに対して増やしていくためには、自分達でまず調べてみないといけないということを目的にやっております。

(岡村会長)

この事業そのものが、資源を回復できるものではないけれども、資源回復のためには欠かせない取り組みだということで理解しました。その他にはありませんか。

(田中委員)

取組内容のところ、食害の大きいカワウ対策として追い払いを実施し、費用対効果の検証を行ったとなっておりますが、実際のところ効果はあったのでしょうか。

(企画課：津野四万十川振興室長)

今回数までは集計していませんが、シルバー人材センターに委託をして追払を行っております。それで、ここからが難しいところですが、追払を行ったあと、その追ひ払ったカワウはどこへ行ったのかということです。追ひ払ったカワウが戻ってき

てしまっているのではないかという意見もあり、その繰り返しになってしまうのではという事も確かにございます。ですが、その繰り返しがカワウ対策には大事だとも思っておりますので、今後もドローンを活用するなど区長さんをとおして、検証は続けていきたいと考えております。

(岡村会長)

なかなか難しいところだと思いますが、本来アユが被害を受けるはずだったのに、追い払いでその被害をなくせたっていうことは測ることができない。我々の身近で言うと、交通安全対策ってやりますけれども、交通安全対策で交通事故に遭う人が遭わなくなったというのは、正直分かりませんよね。それで、我々は何をカウントしているかということ、事故件数の減少だけ増減だけをカウントしていますが、それは本来カウントすべきではないというか、対策による効果がちょっと違う意味になると思っていて、我々はやっぱりそういう代替した指標でしか測ることができないことだと思うのですよね。一方で、おそらく他の地域でもカワウの追い払い対策として、こういうやり方は効果あるかっていうのは、科学的に検証しているチームなんかもあると思いますので、それを引っ張ってこられて、これは効果があるから四万十町でも展開しようということでもいいのかなと思いますので、やられていると思いますけれども、そういった専門性を上手く使っていただけるといいかなという気がしました。では、お時間がきましたので、次の話題に行きたいと思います。次は(2)四万十川流域の環境保全ということで、①環境対策事業と②景観保全事業の2つございますのでよろしくお願い致します。

(学校教育課：東副課長)

(2)四万十川流域の環境保全の①環境対策事業について説明。〈省略〉

(企画課：水田係長)

①環境対策事業について説明。〈省略〉

(企画課：津野四万十川振興室長)

7ページ②景観保全事業について説明。〈省略〉

(岡村会長)

ありがとうございます。以上で、①環境対策事業と②景観保全事業の2つについてご説明いただきました。ご質問などある方がいらっしゃいますでしょうか。

(野村委員)

②景観保全事業のところ、河川に残されるビニールごみとか記載がありますが、私がこの間の四万十川一斉清掃に参加して気がついたことですが、農家から出される農薬等が入ったようなビニールの袋のゴミが非常に多いですね。田んぼや畑で、いつまでも使い終わったビニールの袋を置いていますよね。あれはどうしてかなと。使わないなら各農家さんが撤去すれば、川に流れることもないし、このビニールごみを回収する分のシルバーさんへの委託料もかなり減るのではないかなと思います。どうでしょうか。

(企画課：津野四万十川振興室長)

今年度の話ではあるのですが、今年行われた四万十川一斉清掃でも、確かにビニールごみが多かったということは聞きました。これまで年によって粗大ごみが多かったということはあるのですが、ここでも書かせてもらっていますとおり、来年になりますが、これは啓発がやはり重要だと考えております。それで、なるべく流さないようにというのは、直接的に言うとは角が立つかもしれませんが、このようなことが今年が多かったですので、次年度はぜひこの点について協力してやっていきたいと思いますという事は私どもでも考えております。今年度なぜこのビニールごみが多かったというのは、今後こちらでも調査をしてみまして、農林関係の部署と協議のうえ、少しでもそうしたごみを減らしていけるように考えていきたいと思っております。

(岡村会長)

ありがとうございます。本当に多いかどうかは別かもしれませんが、非常にわかりやすく目立ってしまうというので、非常に多いという印象を与えるというのはあるのかもしれないですね。そういったことを実際意識していただいて、農薬等のビニールごみをどうするかということも1つの視点かなと思います。その他いかがでしょうか。

(山本委員)

私は毎朝ウォーキングしてまして、その時にごみ袋を持って、ごみが落ちていれば拾っているのですが必ずタバコやお菓子の袋、ペットボトルなどが落ちています。やっぱりみんなが歩く時にごみが落ちていれば拾う習慣が当たり前にならないと、ごみでいっぱいになると思います。野球の大谷選手は、球場のゴミを拾うことによって、自分の運を拾っているという本も出していますが、そういう考えになったらゴミが減るのではないかなと思います。それで、例えば東京の明治神宮とか京都の城崎などの観光地に行ったら、ごみの1つも落ちてないのですよ。そういう意識を変えていかないと絶対に綺麗になるとは思わないですね。今役場のところに、花を置いています、あれはいいなあと思って見ていましたけど、やっぱり皆の意識を変えてごみを拾うのは当たり前というふうになったらいいと思います。

(岡村会長)

ありがとうございます。ぜひ普及啓発事業をやられている中でも、どうやったらゴミをすぐ拾ってもらえるのかみたいなところも含めてお考え頂けるといいかなと思いますし、今後の事業推進に対するアドバイスというところでもあると思いますので、ぜひ宜しく願い致します。それでは、最後でございます(3)ふるさと教育事業①川ガキ育成事業と②高知大連携事業でございます。よろしくお願ひします。

(人材育成推進センター：中井次長)

(3)ふるさと教育推進事業①川ガキ育成事業について説明。〈省略〉

(学校教育課：東副課長)

①川ガキ育成事業について説明。〈省略〉

(企画課：津野四万十川振興室長)

②高知大学連携事業について説明。〈省略〉

(岡村会長)

ご説明いただきました2つの内容につきましてご質問ありましたらお願いします。いかがでしょうか。私の方から1つ質問よろしいでしょうか。先ほど、町内の高校への進学と町外の高校への進学ということでお話もありましたけど、実際高知県内の他の地域についてもそうした状況というのはどんな感じなのでしょう。四万十町が特段多いだとか、その辺りの情報がありましたら教えていただければと思いますが。

(人材育成推進センター：中井次長)

町内高校への進学率については、この取り組みをする前が20%ぐらいまで落ち込んでいた時がありましたので、そこから言うと結構回復してきた方かなというふうには言えると思います。町外の他校と比較した場合のパーセンテージとかでいうと、現状の数字を把握はしていませんが、先日室戸高校の方の取り組みとかも聞いておりましたが、室戸高校さんなんかは女子のソフトだったと思いますが、市外からの方がかなり女子生徒は多いという話も聞いておりますので、そのあたりと比較するとそれなりの成果はあるのかなと思っています。

(岡村会長)

これは四万十町だけじゃなくて、他の自治体さんもやっぱりそれぞれの自治体の中からの進学や、外からの呼び込みっていうのを盛んにされようとしているところまで理解してよろしいですかね。その他にございませんでしょうか。

(山本委員)

町内には窪川高校とか四万十高校がありますけれど、うちの子は男の子でしたので就職に有利な高知市内の工業高校へ行きました。普通高校ではなかなか就職がありませんでしたので。

(岡村会長)

ありがとうございます。今のご意見も今後のアドバイスに近いところもあると思いますけれども、出口を見据えた内容の検討っていうのも、より町内にとどまっていた可能性が高いのではないかというところかもしれないと思います。その他いかがでしょうか。時間がだいぶ経過をしてみましたので、今から会の終わりまでを、いったん皆さんのご記入のお時間にさせていただきながら、ちょっとここが分からないのもう少し聞いてみたいというご質問がありましたら同時に質問の時間にもしたいと思います。どの議題でも構いませんので、ご自由に挙手にて質問をしていただければと思います。

(黒岩委員)

中学校からの進学についてですが、約半数近くが窪川高校に進学する、約半数近くが須崎の総合高校に進学するという実績があります。ただそれ以外にも子ども達それぞれ希望がありますので、キーワードとしては部活動、それから進学率というところが、子ども達からよく出てくるキーワードとなっております。やはり進学校へ行って、大学へ行ってこういうことをしたいので、進学率の高い学校に行きたいというような意識が子ども達の中にはあるのは確かだと思いますし、それからやっぱり部活動で強豪チームに入ってインターハイに出てみたいであるとか、そういうところで進路を決定する場合があります。まだ中学3年生ではどういうふうな進路を選べばいいのかまだ迷っているという場合には、やはり地元で親元から通いながら考えてみ

たらどうかというアドバイスもしながらなんですが、子ども達のいろんな意識の中で選択肢がどうなっているかということもありますので、ただ本人が決めないことには高校に入ってからなかなか続いていきませんので、最終的には本人が行きたい高校を決定して進んでいくような取り組みをしているような状況です。

(岡村会長)

高校もそうですし、大学でも県外流出みたいな話はよくありますし、今や例えば外国人の確保みたいな話もいろいろありますけれども、人手不足というか、域内の人口減少が起こっている一つの要因の中に流出という大きなキーワードがある中で、個人的な意見になりますけれども、行きたきゃ行けばいいっていうか、それを無理に留める必要はないのではと思います。我々にもし出来ることがあるとすると、本来は地元で叶えたい夢があったとか、学びたいことがあったのにそれが叶えられなかったという事を少なくすることであったり、もうちょっと知っていたら地元の方が良かったということがあるのではないかなと思いますので、今頂いていました意見をお聞きして思うのは、やはりしっかりと情報を適切に伝えられているかということであったり、子ども達のニーズというか、そういったものを汲み取れるプログラムが提供できるか、この辺をしっかりとやれるということがベースなんじゃないかなと思いました。他に何かございませんでしょうか。それでは、評価シートにご記入いただいております方は、書いていただきながらそのままお聞きいただければと思いますが、今後のスケジュールについて事務局の方からありましたらお願いします。

(事務局)

今後のスケジュールについて説明。〈省略〉

(岡村会長)

終わる前に私の全体的なコメントを少し述べさせていただければと思います。ぜひ今後お願いしたいのが、この成果のところの記述についてなんですけれども、平たい言葉で、うまくいったとか意識が上がったみたいなお話がありますけれども、その中でお聞きしていると、何を根拠にそのようなお考えなのかなっていうのがありましてですね、知っている方が多いので、失礼な言葉になりますけれどもやはり数字的に示せるところはしっかり数字で示していただきたいというふうに思います。例えば、デジタルなんかも必ず数値的に捉えられるものですので、そこはしっかり表現をお願いできればなと思います。

それから2点目として、それを根拠にどういう考察なのかですね。例えば前年度対比でこうだったからうまくいっていると思うとか、そういった自己評価をぜひお願いできればなと思います。それで、あともう1点は必ず定量的に評価できないものっていうものがあるのではないかなと思っていて、特に我々にはそういったものは非常に多くあります。今までできなかった事ができるようになったみたいなことですか、例えば教育の効果ですとすぐに成績に現れないものがありまして、ただそこはどのような努力を続けているかみたいなことが表現できたりすると思いますので、そういったところは定性的にしっかりPRをいただいてですね。必ずしもKPIが出るだけではないと思いますので、定量的には示していただきつつ、定性的なところについてもしっかりと意義や効果をPRいただければいいかなというふうに思います。最後に、なかなか委員の皆さん難しいのは同じじゃないかなと思うのですが、例えば you tube で5万回再生がありましたと、それって多いのですか、少ないのですかっていうのがなかなかよく分からないところがありまして。何かと比較していただくと分か

りやすくなるかなという気がします。昨年比でいうと10%アップですって言うと、同じ取り組みをしているのに成果は現れてきているのだなということを理解できますし、なんとかは5万回だったのに何とかは6万回だったとなると、こっちの方が人気があるのかなっていうことを理解できるので、必ず何万回再生されたいというわけではないと思いますので、そういったところも是非できる範囲でお願いできればと思ったところでございます。

それでは、皆様評価シートをご記入いただいた方は、事務局にご提出いただくということで、本日はこれにて終了とさせていただきます。本日はどうもお疲れ様でした。

— 終了 —